



はじめのいっぽ

令和6年度
9月号

令和6年8月30日
認定こども園
東野田ちどり保育園
東野田ちどりキッズ・庁舎内
江川 永里子

昨年に増して、酷暑が連日続いています。

暑さ指数を見ながら、園庭に出る事さえ控えないといけない夏でした。

工夫しつつ、「プール遊び」を各クラス楽しむ事が出来ました。

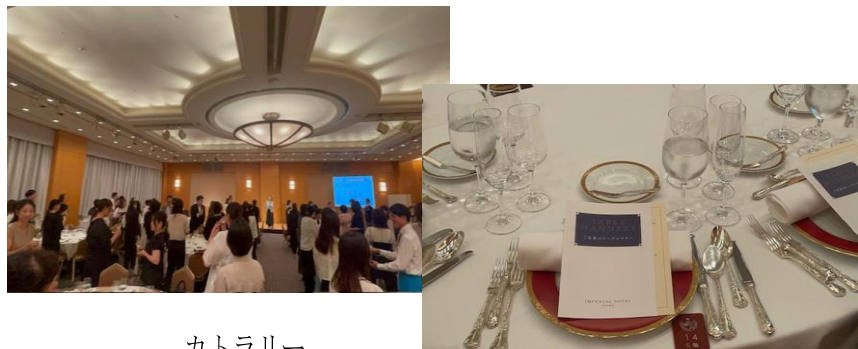
10月13日（日）第16回運動会のテーマは「ゾーンに入る」です。

音楽に合わせて、友達と一緒に「集中する」「没頭する」という

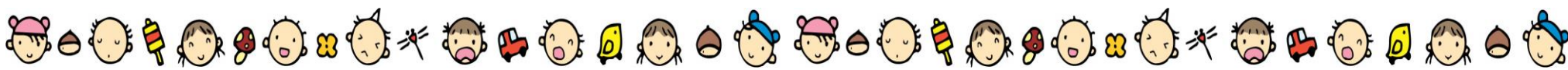
瞬間を大切にしたいと思います。

応援よろしくお願いします。

グローバルな時代を生きる子どもたちのために、
我々がしっかりと学んできました。



カトラリー
(ナイフ・フォーク・スプーンなどの総称)の
使い方など、テーブルマナーを学び、
充実した研修を受けることが出来ました。



～ アドラー より ～

みたび勇気づけ

1, 子どもを理解しよう

「子どもを理解する」というのは、子どもの言うなりになることではなくて、起こった出来事について、子どもがどんな風に理解し、どんな風に感情をもち、どうしていこうとしているのかを、よく話を聴いてわかってあげることです。親が話を真剣に聴くと、「親は私の仲間だ」と感じるでしょう。忙しいときなどに話しかけてくるのは、あるいは不適切な行動でもって注目を引こうとしているのかもしれません。しかし、そんな場合でも、仕事の手を止めて、真正面から子どもに向き合ってみてはどうでしょうか。

2, 冷静に話し合おう

あなたが感情的になっても、子どもが感情的になっても、子どもを勇気づけることはできません。そういうときには、両方の感情がおさまるまで、話し合うのを先へのばしましょう。両方が落ち着いてから、ゆっくりと話し合えばいいのです。

3, 子ども自身に考えてもらおう

子どもの人生について、できるだけ子ども自身が考えて決めてほしいと思われませんか？だって、それが「自立する」ということですから。そのためには、子どもが失敗したときや間違いを犯したとき、親が指示するのではなく、子ども自身にどうするかを考えてもらうことが必要です。子どもが自分で考えることが難しいようなときでも、ゆっくりと子どもの話を聴いてあげると、子どもはさまざまのことに気がついて、自分で決めることができるようになるかもしれません。

4, 子どもを援助しよう

人間は一人で生きていくことはできません。いつでも誰かの手助けがないと生きていけないのです。子どももそうですし、大人もそうです。ですから、親は子どもを援助しなければなりません。もちろん、子どもも親を援助してくれます。そうして助け合って生きるのが家族なのです。子どもを支配するのではなく、子どもに服従するのではなく、対等の仲間として子どもを援助して暮らしたいと思われませんか？